

高野町計画

三角庭の家

・・・高台でくつろぐ・あそぶ

計画敷地は、小中学校が近いことから、複数の子供がいる30代を施主設定した。また、住宅街の外側の山の裾に位置し、石手川の川沿いであることでアウトドア関連を施主の趣味と想定した。

道路との高低差が約3mある高台にあることがこの敷地の最大の特徴である。他にはない開放感を得られる一方、その高低差よってに将来、外出が多少億劫なることが予想できる。その気持ちを解決したいと考え、長い時間過ごすことになっても、家族同士が窮屈ならないそれぞれの居場所のある家を目指した。

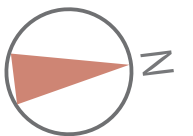
大きなひとつの部屋にするのではなく、リビングとダイニングに多少の距離を取ったり、書斎などを設定するなど、なんとなくのコーナー、つまり居場所をどづくりを意識した。それらはほどよくつながるので家族間の気配は感じることができる。ただ、それによって部屋割りが小さくなりがちになるので空間の開放感を得ることを考える必要が出てくる。

そこで、建物を敷地形状から多少の角度をつけることによって発生した大小さまざまな三角庭に視線を広げることで解決した。

このように、高台ならではの開放感と、さまざまな視線の広がりによって、飽きることない豊かな時間を過ごすことができる家を計画した。



西側立面図



前面道路

玄関ポーチ

外階段から玄関ポーチへのアクセス時、室内をのぞくことがないように、位置関係を配慮した。

小屋

キットでつくる小屋を設けて、アウトドア用具や車のメンテ工具などを収納する。

シンボルツリー

街区に進入する正面に位置することから、シンボルツリーを設けることで雰囲気をつくった。

家族の居場所

大きなひとつの空間ではなく、家族それぞれの居場所を意識して計画した。ただ、それらが孤立することなく家族の気配は感じられるようほどよく空間がつながる。

庭

外流を設けるなど、さまざまな趣味を楽しむことができる。ドッグランに最適である。

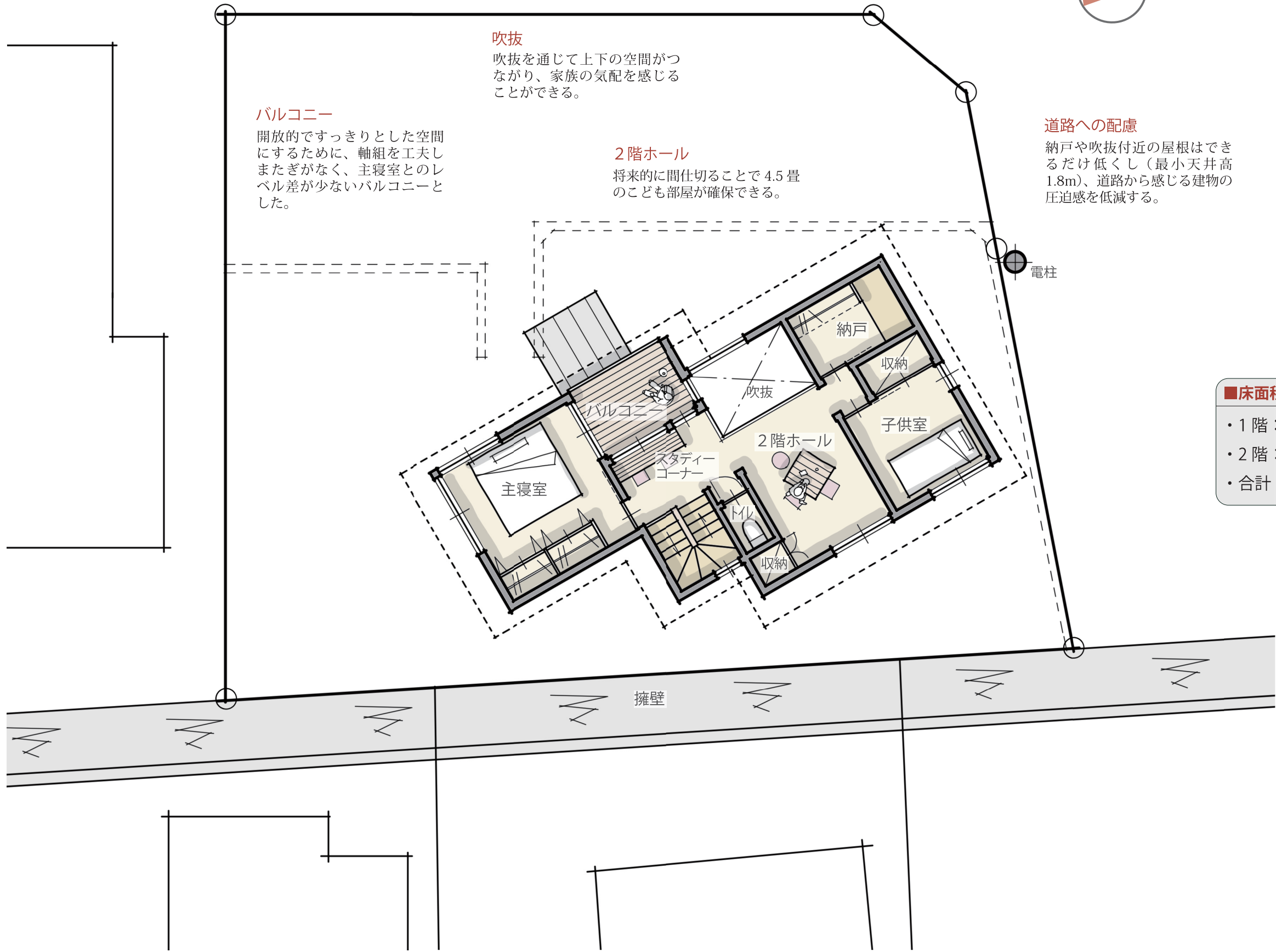
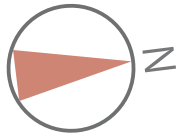
三角庭への視線

それぞれの場所から大小さまざまな三角庭に視線が広がるよう配慮した。

リビング

一段低くすることで天井を高くなるだけでなく、濡縁と庭とのアクセスがよくなる。西側、南側大きく開口部を設けて開放性を確保した。





吹抜
吹抜を通じて上下の空間が
つながり、家族の気配を感じる
ことができる。

バルコニー
開放的ですっきりとした空間
にするために、軸組を工夫し
またぎがなく、主寝室とのレ
ベル差が少ないバルコニーと
した。

2階ホール
将来的に間仕切ること
で4.5畳のこども部屋が確保
できる。

道路への配慮
納戸や吹抜付近の屋根はでき
るだけ低くし(最小天井高
1.8m)、道路から感じる建物の
圧迫感を低減する。

■床面積	
・1階：	58.79㎡ ・ 17.75坪
・2階：	48.85㎡ ・ 14.75坪
・合計：	107.65㎡ ・ 32.50坪